

第6学年 算数科学習指導案

日 時 7月11日(土) 2校時

対 象 6年1組 31名

授業者 一戸 崇史

1 単元名 「倍の数の意味を広げよう」(東京書籍)

2 校内研究との関わり

本時は、分数倍の問題を解くにあたって、既習事項を基に立式し、基準量を求める場合の計算方法を考える学習である。本時の基準量を求める問題を前時の比較量を求める問題と比較することで、本時の課題を捉え、課題解決に向けて自他の考えを共有していく。様々な考え方でも同じ式を立てられることに気づき、基準量や比較量、割合が分数の場合の倍の意味について図や式を用いて考える力を育てたい。

本時では、「自律に向かう学び」のうち、以下の段階を位置付ける。

- ㊦ 子どもが選択する場面が生まれる。
- ㊧ 児童と教師が学びの進め方を調整する。
- ㊨ 児童が自分で方法を考える。

さらに、図や式、言葉など多様な表現を認めること、一人ひとりの考えの違いを比較・共有することを通して、

- ② 認知・思考の多様性
- を生かした学びにつなげたい。

3 本時の授業

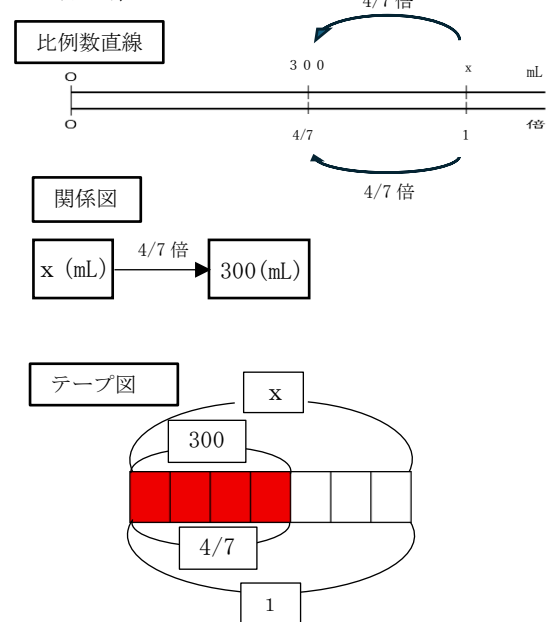
(1) 目標

図や文字式など用いて考える活動を通して、既習の整数倍や小数倍、前時の比較量や割合の求め方と同じように考えられることに気づき、倍を表す数が分数である場合の、基準量の求め方を説明することができる。

(2) 展開 3/3

学習活動	
1 問題の発見 ○本時と前時の問題を比較し、本時の問題が、もとにする量を求める問題であることを確認する。 (前時)水が600mL入っています。Aの容器には2倍、Bの容器には$\frac{6}{5}$倍、Cの容器には$\frac{3}{5}$倍入っています。それぞれの容器に入っている水の量を求めましょう。 (本時)水が300mL残っています。これは最初の水の量の$\frac{4}{7}$倍にあたります。最初の水の量は何mLですか。	・教師の働きかけ ◎評価 ☆支援 □校内研究との関わり ・前時の問題との比較をし、児童とのやり取りの中で、分かっていることが分数倍(割合)で共通していること、前時は基準量が分かっている比較量を求める問題だったことに対して、本時の問題は基準量を求める問題であることに気付かせる。 ・児童とのやり取りの中で、「もと」などの本時の学習のキーワードとなるようなつぶやきや発言があった場合は、吹き出し等で黒板に残していく。
2 めあての設定 もとにする量はどのように求めることができるか。	・問題の発見から、本時の学習のめあてを児童と共に考える。

3 課題解決



式	式の意味の説明
$x \times 4/7 = 300$	$x \times 4/7 = 300$ の式は、
$x = 300 \div 4/7$	x を 1 とみたとき、
$= 525$	$4/7$ にあたる水の量が
	300 であることを表し
$300 \times 7/4 = 525$	ている。

4 課題解決までの過程の共有と比較

- 取り上げられた図を見て、式の表し方を考える。
- 表した式が図のどの部分に示されているかを考える。

5 まとめの共有

もとにする量は、割合が分数の場合でも整数や小数と同じように、図などを使って考え、式に表すことできる。

6 本時の振り返り

□今まで学習してきた比例数直線や関係図などを使って、立式する方法を考え、答えを出す。〔自律⑦⑧〕

☆考えを表現できずにいる児童には、比例数直線で表すことを促し、数値を数直線上のどこに表せばよいかなど具体的に問いかけながら支援していく。

☆比例数直線で表すことができて、立式が難しい児童には、何倍になっているかを示す矢印がどのように書かれればよいかを問いかけながら、立式を支援していく。

◎割合が分数の場合の基準量の求め方を、既習を基にして図や式に表して説明している。【知識・理解】ノート、発言

□ペアやグループで考えを共有する時間を設け、全体での解決方法の比較の際にも同じように発言ができるように自分の考えを説明する。〔多様性②〕

・自分がどの方法で考えたのか、相手に伝わるように説明させる。

- ・比例数直線や関係図など考え方から、立式までの過程を児童から引き出していく。
- ・児童とのやり取りの中で、児童が発言した学習のまとめにつながるようなキーワードや数値などを、黒板上に矢印や吹き出しで書きながら整理していく。
- ・自他の立式までの過程の違いとその計算結果が同じであることを交流し、いろいろな方法で立式できることに気付かせる。

◎もとにする量を求める場合に、倍を表す数が分数でも、図などを使って式に表すことができることを説明することができている。【思考・判断・表現】ノート、発言

・本時の学びを整理する。